

K033

- T: じゃ、ちょっと、あのOPIっていうんですけど、30分くらい〈はい〉時間頂きます。
あの一、ま、これは、その、口答能力を、えー、調べるものなんですけれど、あの、えー、話はごく普通の話をしてから〈はい〉、えー、あの、ま、力いっぱい話して欲しいと〈はい〉思うんですけどね。
えっと、【I (名)】先生と。
- I: ちょっと補聴器持ってくれば良かった。
- T: あ、そうですか。
- I: ちょっと〈ああ〉、最近、耳が遠くなって。
- T: あ、そうですか。
- I: はい。
- T: あの、ま、わたし、同僚ですけどね、なかなかあまりこうやって話すチャンスがなくて〈はい〉、突然こうなったもので〈いえいえ〉。
えーと、そうですね、わたし、まあ、ここは6年目なんですけどね。
- I: あ、【T (姓)】さん6年目。
- T: 6年目。
先生はどうなんですか？。
- I: 僕は86年からなので〈ええ〉、にじゅう、2・3年目かな。
- T: あ、もう随分長いですね。
- I: 長いです、はい。
- T: あー、あー。
でも、生まれたのは、えー、日本で？。
- I: 生まれは東京です。
- T: あ、そうですか。
育ったのはどうなんですか？。
- I: うん？。
- T: 育ち、そだ、あ、大きくなったのは？。
- I: 育ちは、えっと、1歳になる前に〈ええ〉、両親があ【地名1】県に〈ええ〉引っ越して、えっと、宣教師として〈ええ、ええ〉、だから育ちは【地名1】県。
【地名1】県といっても、あの【地名2】県と【地名1】県の境の【地名3】川の近く〈おー〉の、ま、田舎、ま、ど田舎ですけど。
- T: ええ、じゃ、【地名4】、【地名4】の近くですか？。
- I: 【地名4】よりまだ南〈あー〉ですね。
- T: じゃ、うーん、いい所ですね。
- I: いいとこです、はい。
今、あの、the world heritage site の一つになってますね。
- T: あー、はー、はー、はー。
行かれたことは、す、そこは、もう長くいらした？。
- I: あ、何回も、あ、最近もまた行ってます、はい。
- T: あー〈うん〉、いや、そのいわゆる世界遺産ですよ？。
- I: はい〈ええ〉。
あー、【地名5】とかですよ。
- T: あー、はー、はー、【地名5】〈うん〉。
え、わたしは、実は、車でちょっと行ったことはあるんですけどね〈あー、あー〉、今、その時は、確かまだ、えー、世界遺産じゃなかったんですけど〈あー〉、どういふことで世界遺産になったんですか？。
- I: えーと、自然の美しさ〈ええ、ええ〉と歴史的意味じゃないかな。
ちょっと、あの、ん、あの、ま、自然の美しさでしょうね。
- T: なるほどね。
- I: あの、森、深い森とかが〈うん〉残って〈うん〉、そして、道、あの、なんていうのかな、山道が非常に綺麗ですね〈あー〉。
綺麗っていうか、あの、綺麗っていうか、古いのが〈ええ〉こういいのが残ってますね。
- T: なるほどね。

K033

そこで何歳ぐらいまでいらしたんですか？。

I： えーと、うーん、両親は80年代の冒頭までいたんですけど〈ええ〉、ぼくは中学から東京の、こ、あの、アメリカン・スクールに行ったので…。

T： あ、そうですか。

I： ま、でも、学校が休みのときですね、あそこに戻りましたから。

T： あー、ま、なんか、【地名3】と言えね〈うん〉、神話的な〈うん〉あの一、何ていうのかな、ものが残ってるんですよ。

I： 残ってますね、はい。

T： それとお父さんは宣教師で。

I： はい。

T： えー、どうなんですか？、その一合うんですか？、そのキリスト教の考えとは。

I： 合うというより、たぶんその関係で、また、あの一、大学行ってから〈ええ〉、その地方都市教について興味があって〈ええ〉、そこに戻って山に入って〈ええ〉、そこに戻って山に入って〈ええ〉、山の、山の宗教ですか〈あ〉、山伏の研究をやってたんです。

T： あー、そうですか。

へー、山伏の研究。

I： はい。

T： すると、山伏、【地名3】は山伏ですか？。

I： あ、そうですね、色々ありますけど〈ええ〉、一つは〈ええ〉【地名6】山から入って〈ええ〉、【地名3】まで歩くという、そういう一つのメインコース〈ええ〉。

おおみね、さん中心にや、そういうコースっていうか、昔の行場ですね。

T： 何場？。

I： ぎょう、行場〈あー、あー、あー〉。

修行する場所。

T： あー、なるほどね。

I： が、ずっと並んでますから〈あー、はー、はー、はー〉。

T： じゃ、ご専門は、その、その山伏。

I： ええ、しゅ、あー、そうですね。

ま、しゅ、だから、修士コースは〈ええ〉、修士論文は【大学名1】のために〈ええ、ええ〉、で、で、こう、それでまとめて〈ええ、ええ〉書きましたけどね〈ふーん〉。

T： 博士の方は？。

I： 博士の方は、【学門名1】の方に入って〈ええ、ええ〉、文献学的な研究になってしまったので…。

T： なるほどね。

I： ちょっと、また、別な方向に行ってしまいましたけどね。

T： 文献学的っていうと、どういうこと何ですか？。

I： 主に漢文の文献を読んで〈ええ〉、それを英訳したり〈ええ〉、それについて研究したり。

T： 漢文？。

I： ぼくは結局落ち着いたのが、ま、日本、えー、ちょっと繋がりがあるんですけど、やっぱ山伏は【宗教名1】とか、関係深い、深い。

T： あー、そうですか。

いや、ぼくは日本人なんで〈{笑}〉あんまりよく知らないもんなんですからね。

I： いや、【宗教名1】〈うん〉、【宗教名2】に興味があって、でー、ぼくが2・30年前に博士過程に入ったとき〈ええ〉、まだあの【地名7】【宗教名2】の【宗教名1】〈ええ、ええ〉とか、【宗教名3】〈ええ〉とか、それが流行ってたんですけど〈ええ〉。

それ以前に【宗教名1】に興味があって〈あ、はー、はー、はー〉、日本の【宗教名1】について勉強しようとして〈手を打つ〉思ったん〈うん〉ですが、えー、日本の【宗教名1】はやっぱ中国の〈ええ〉、中国でできた宗派なので〈あ、はー、はー、はー〉、っていうか思想なので、そこにさかのぼって、えー、【宗教名1】の階層ですか〈ええ〉、【宗教名1】大師っていう方、5・6世紀の、で、書かれた文献を中心に〈うん、うーん〉研究をやってますね。

T： いや、結構古い。

K033

- I : {笑} そうですね〈あー〉。
5・6, 5・6世紀。
そうですね, 1300年前。
- T : なんかそういう, 行といえば, ず, 【宗教名1】で一人, 【地名8】山で, なんか, 日本人ですごい行をした人がいますね。
- I : あ, 最近ですか?。
- T : 最近ですね。
- I : 「回峰行」ってありますね。
- T : えー, えー。
- I : いっせん, 一千日こう〈ええ〉山を歩く〈そう, そう, そう〉という, 日本で一番厳しい修行ですね。
- T : その本を持ってるんですけどね〈あー〉, あの, ちゃんと読んでないです{笑}〈{笑}〉。
そうですね, そ, 【地名3】。
じゃ, 子どもの頃の思い出っていうのは, だいたい【地名3】ですか?。
- I : そうですね, はい。
- T : あー, いいところですか?。
- I : 良いとこですね。
- T : 何が, どういう, あれかな, 思い出ありますか?。
- I : うーん, ま, やっぱ, 友だちはみんな近所の友だちだったので, 家の中でこう, で, 家の中はもう, アメリカの中部の〈ええ〉, 何ていいますか, middle class〈うん〉, Midwestern〈あー, あー〉の家で育ったような感じです〈ええ〉。
やっぱ家の外は, 日本の田舎ですから, 近所の友だちと〈うん〉は, 何ていいますか, うーん, 山の中で〈ええ〉, 走りまわったり〈ああ〉, チャンバラやったり。
- T : あ, そうですね。
- I : {笑}〈{笑}〉こうはっぱで手裏剣を作ったり〈あー〉, ビー玉でこう遊んだり。
- T : 随分, 田舎なんですか, そこは?。
- I : いや, わか, かなり田舎ですね〈あ, はー, はー, はー〉。
あの, と, ぼくが, え, 中学ぐらいまで〈ええ〉, 【地名9】と【地名10】の間の線路ができてなかったんですよ〈ええ, ええ, ええ〉。
- T : あー, そうですね。
- I : 東京行くために〈ええ〉, あの, 【地名11】半島を〈ええ〉【地名12】まで出て〈ええ〉, で, そして, あの, 夜行列車で東京まで一日半かかったんだ。
- T : あー, そうですね。
- I : そう, それも{息を吸う}〈えー〉よく覚えているんですけども。
そして, あの, 電車も, 電車, 電車じゃなくて, あの, あれ, 何ていう, 昔の話, steam engine ですか,
あの, あの, 汚い, あのー, えー, 汽車, 汽車ですね。
- T : 蒸気, 蒸気機関車ですね。
- I : 蒸気, 蒸気汽車〈ええ〉。
ですから, トンネル入ると窓を閉めないところ〈あ, はー, はー, はー〉あれが入っていて。
- T : たぶんわたしと同じような年代だと思うんですけど〈{笑}〉。
- I : そうですね。
- T : あのー, 子ども頃はね, それがね, ありましたから, 覚えてます。
そう, だけど田舎でね, 白人がね〈うん〉, もうほとんどいないでしょ?。
- I : いなかったですね, あの, ですから, それも, うーん, あまり, 良い思い出じゃないですけど〈あー〉, 外に, ま, 近所〈うん〉にいたら, みんなもちろん友だちだから〈ええ, ええ〉, な, 何も, 普通に遊んでたんですけど〈ええ, ええ〉。
町に出るとか〈ええ〉, だったら, すぐ, もう, 人が集まって〈あー, あー〉, 車の中にいたら, もう2・30人集まって〈あ, そうですね〉見られるとか。
- T : 特にまあ{息を吸う}あー, 今はだいぶ違いますけど, 昔はもう。
- I : 今は, もう, ほとんど, そういうのいらないですね。

K033

- T: うーん。
 ま、何かちょっと、個人的なこと聞くけど、そういうことはどうやって解決されました？。
 何かやっぱり精神的な負担になりました？。
- I: 「負担」っていうほどじゃないですけど〈えー〉、あんまり、うーん、ちょっと、不安っていうほどじゃないですけど、嫌でしたね〈うーん〉、そういうふうに注目されると〈うーん〉、どういうふうに反応したらいいのか。
- T: ただ、まあ、そういうもん、今はもっと複雑になってて、例えば日本人だけ英語できない人たくさんいるし〈あー〉、アメリカ人だけ英語ができない〈うん〉人もたくさんいて、そういうアイデンティティの問題っていうのはね〈うん〉、えー、どうなんだろう。
 先生は国際結婚？。
- I: そうですね〈うん〉。
 ですから、それは1つの大きな〈ええ〉問題ですね〈ええ〉。
 子ども…。
 家内が〈ええ〉、家内も英語が上手ですので〈ええ、ええ、ええ〉、2人とも両方できるので、家の中は両方で喋ってたので、バイリンガルに育つためにやっぱり色々常にこう色々工夫しないと〈あー〉なかなかうまくいかないのだから〈あー〉。
- T: 子どもさんは大きいんですか？。
- I: 今はあん、みんな、もう一番下は、今、大学生なので〈ええ、ええ、ええ〉。
 でも、まあまあ、うまくいったのかな、みんながバイリンガルで〈ええ、ええ〉。
 ただ英語だけだったら、英語のレベルがもっと高いので〈ええ〉、そういうあの自分の能力をフルに生かせなかったと思うんですよ、子どもたちが〈あー、あー〉。
 あの、でも、それはしょうがないですけどね〈うん、うん、うん〉。
 でも、バイリンガルで育ったので〈あー〉、それで良いと思ってますけどね。
- T: なるほどね。
 子どもさんは、その、アイデンティティの問題はないですか？。
- I: ぼくの方は、ありましたね、最初は〈あー〉。
 あのー、うーん、高校卒業して、大学行ったとき〈ええ、ええ〉、ま、ぼくはアメリカ人〈ええ〉だから〈ええ〉、みんなとおんなじに〈ええ〉と思ってたら〈うん〉そうじゃなくて〈ええ〉、で、色々ずれがあつて〈うん〉、あとで考えてみると、あのー、カルチャーショックみたいなのを経験した。
- T: あー、そうですか、あー。
- I: で、ま、日本に戻ったり〈うん〉、アメリカ行ったり〈ええ〉、うちに、もう、ま、両方でいいやっつていう〈うん〉ことで落ち着きましたけどね〈おー〉。
 うちの子は、あんまり、アイデンティティー・クライシスとかね、そんな〈ええ〉話さないですね。
 しっかりと〈うん〉、そのー、ダブルであることが〈あー〉意識して、それで〈あー〉いいんだっていうので〈あー〉、うーん、ただあの大学は【地名9】〈ええ〉の大学に行つてて〈ええ、ええ〉、大学町は、いや、結構国際的だったんだけど。
- T: そうですね、まあ。
- I: やっぱり落ち着かないですね〈うん、うん〉、そこで〈あ〉。
 ですから、結局、【地名10】とか〈ええ〉【地名11】〈ええ〉、そういう国際性〈うん〉豊かな〈うん〉環境に〈うん〉、じゃないと落ち着かないとこありますね。
- T: あ、【地名9】って【地名12】のか…。
- I: 【地名12】ですね。
- T: あ、そうですか。
 大学町っていうと、結構いろんな民族入つてて。
- I: うん、ですから、大学〈ええ〉にはもう〈うん〉いろんな、もうそういう〈うん〉国際雰囲気で〈うん〉、べつ、よかつたんですけどね。
 あのー、といっても、【地名12】は田舎町ですからね〈あー〉。
 ご存じで、行ったことありますか？。
- T: うん、もちろん行ったことありますからね〈{笑}〉。
 ま、ほんとにちっちゃい町で、あんまりないところで。

K033

- I : ちょっと出たら、ほんとにま、田舎ですからね。
- T : そうですね。
先生がそのアメリカへ、大学入られて、ちょっとアイデンティティの問題があったあと、今おっしゃいましたよね〈うん〉。
それ、高校から大学の〈うん〉、あ、それは【大学名1】だっけ、大学は？。
- I : いや、えー、高校卒業したら、アメリカの大学に行きました。
- T : あ、そうですか。
- I : あの【地名13】州の...〈うーん〉。
- T : 今ね、わたしの学生にも、結構ハーフとか〈うん〉もっと〈うん〉混じってるのが〈うん〉いるんですけど〈うん、うん〉、ま、色々複雑ですね。
- I : 難しいですね。
- T : あの、先生の立場からして、そういう学生にね〈うん〉、どういうことが言えますか？、そのアイデンティティを確立するということについて〈あー〉。
- I : あの一、うーん、ま、自分のアイデンティティを考えるとときに〈ええ〉、国とか〈ええ〉、そういうもので定義しない方がいい〈うん〉。
だから、自分が日本人とか〈ええ〉アメリカ人だった〈ええ〉、そういう必要ない〈うん〉と思うんですよ〈うん、うん〉。
ある人は、日本人であることで〈うん〉、アイデンティティを決めて〈ええ〉、それでいいんだけど〈ええ〉、やっぱり、バイカルカルチュラルな〈うん〉バックグラウンドのある人はそれで限定すると〈ええ〉難しいと思うんですよ〈うん〉。
自分が日本人だと思ったら、やっぱり違うところがあるから〈うん〉、で見た目も、ち〈うん〉、違うし〈あー〉。
うちの子も日本だったら〈うん〉外人に見られるけど〈うん、うん〉、アメリカにいたら「あなたは、エジアン [アジアン] とか、メキシカンだろ〈ええ〉」とか言われる。
ですから、その一、うーん、ま、一般的に〈うん〉、ま、その思うんだけど、国とか、国で自分の〈うん〉アイデンティティをこう結びつく〈うん〉ことは避けた方がいい。
- T : なるほどね。
ただし、それは自分の問題であって〈あー、あー〉、自分がそう考えればいいんだけど、現実はその、うーん、周りはそのいうふう考えてるかって〈うん、うん〉いうのが、それがおっきな問題ですよ〈うん〉。
それについてはどういうふうに思われますか？。
- I : うーん、周りは、うーん、周りとのずれが出るのはしょうがないですね、どこ行っても〈{笑}〉。
ですから、それをどう自分のなかで消化するかっていうか、どう対応するかですね〈うーん〉。
あの一、だから、じ、自分が日本人だと〈ええ〉あまりにも執着して〈ええ〉、で周りからそうじゃないように扱われると、それ葛藤になるじゃないですか〈うん、うん〉。
じぶ、あの〈ええ〉ええ「おれ日本人だ」とか〈うん、うん〉、あ一、でも、それを〈うん〉、うーん、ま、自分は外見はこうだし〈うん〉、うーん、他の人から別に日本人と見られる〈ええ〉とか、アメリカ人と見られても、それはそっちの問題だからって〈うん〉いうふうに言えるようになったらいいんじゃないですか？〈うん、うん、うん〉。
- T : まあ〈{笑}〉、そう...。
- I : そう簡単にはいかないかもしれませんけどね。
- T : ですよ。
場所によるよね、やっぱり日本でも田舎とか、まあ最近ずいぶん変わりましたけどね〈うん〉。
えーと、アメリカではあんまり問題にならないでしょうね〈うん〉。
ヨーロッパでもあんまり問題にならないと...。
- I : でも、アメリカでもなりますよ。
うち〈あー〉、【地名12】はね、ば、【地名14】地区で行ってたときに〈ええ、ええ、ええ〉、いち、あの一、次男〈ええ〉、一番下の子が〈ええ〉、あのローカルな〈うん〉、あの小学校に〈あー〉行って、あの、けんかになった頃ありますね〈はー、はー、はー〉。
あの、中国人と〈ええ〉間違われて〈あー〉、あの「国に帰れ」とか言って〈ああ〉けんかになってね

K033

〈ええ〉、「おれはアメリカ人だ」とか〈あー、そう〉言ってもう〔笑〕。

T: お子さんには、先生は、なん、何ておっしゃったんですかね。

I: あー、そのときー〈うん〉、えーと、よく、うーん、どうなったか、まあ先生がうまく〈ええ、ええ〉あの中に入って〈あー〉、で、もちろん、子どもとも、あの、話〈うん〉合ったんですけど〈うん〉。

でも、こういうのも〈うん〉経験して〈うん〉乗り越えるしかないなと〈うん〉思っ。

T: そうですね、ま、ちょっと話を変えますけど、うーん、ま、例えば、その一、ちょっと、同じような感じかもしれないけど、オバマさんがね、大統領になるんですが、彼がなることで、アメリカは、じん〔人〕の〈うん〉意識は変わると思いますか？。

I: うーん、うーん、彼が大統領になったことによって、もうすでに変わってることがある〈うん〉とは言えると〈うん〉思いますけれど〈うん、うん〉。

だからといって、人種差別が無くなるとか〈うん〉、あの一、黒人とかを、お、えっと、えーその、人種〈うん〉のことで〈うん〉問題がなくなることはないと思います。

やっぱりいくら何でもそれが残るし〈ええ〉、うーん、でもいい傾向にいい、行くと思うんですね〈うん、うん〉。

すでに黒人としての〈ええ〉、ま、彼はハーフですけどね。

T: ええ、そうですね。

I: ダブルですけどね〔笑〕〈ええ、ええ〉。

T: えーと、黒人。

I: みんな黒人と言ってるんだけど、お母さん白人ですからね。

T: そう、そう、そう、そう。

I: でも、見た目で、あの〈うん〉、あの、イメージとして〈うん〉黒人として常に〈うん〉ニュースに出たら〈ええ、ええ〉、やっぱり影響があると〈うん〉思いますが〈うん〉、だからといって、もうそういう人種差別的な〈ええ〉問題が消えてしまうとも思えないし〈うん〉。

T: 「人種差別」っていうのはそうすると〈うーん〉、なくならないものですか？。

I: あー、ま、人間は外見で判断しますからね〈うん〉。

人種だ、だけじゃなくても〈ええ〉、何かで〈ええ〉、え、すでに外見で間違っ〈ええ〉差別するとか、あるいは判断っていうのは〈ええ〉なくなるとは思いますけどね〈うーん〉〔笑〕。

T: 〔笑〕それに対して、じゃあ、先生の【宗教名2】のねところとか、【宗教名1】行とか、そういうものとかって何か関係がありますか？。

I: うーん。

T: 何か貢献す、できるようなこと。

I: 【宗教名2】、5・6世紀の【宗教名2】で人種差別、ある、るあん、あー、思ったことないんだけどねー。

T: もうその頃の国の状態っていうのはね〈うん〉、そもそも日本という国があったかどうかっていうね、えー、中国にしても、韓国にしても、そういう、まあ、えー、豪族とか〈うん〉そういうものはあったらろうけど〈うん〉、こ、こういう状態じゃないから、また違う〈うん〉じゃないかなとわたしは思ったりするんですけどね〈うん〉。

例えば、柿本人麿と〈うん〉いうのは、確か、韓国からの帰化人ですね。

I: あ、そうですね。

T: だと思います。

I: あの万葉集の。

T: ええ、ええ。

I: ふーん。

T: だか、その、そういうことは、へ、とか、かん、九州には〈うん〉たくさん、いわゆる、朝鮮民族入ってる。

I: まあ、【宗教名1】は日本に伝えたあの一〈ええ〉最澄も〈ええ〉中国の〈ええ〉移民の、あの、しそ〔子孫〕、あの〈ええ〉、にさん、二代目か三代目ぐらいですね。

T: そう考えて〈うん〉みると、かえって昔の方が〈うん〉、どうでしょうね。

I: 日本がもっと国際的だった？。

T: うん。

K033

- I : {笑} うーん、あ、昔といっても、時代にも色々ありますね。
- T : あー、もちろん1000年前、2000年前。
- I : 鎖国時代とか、あの、中国との〈うん〉交流が多かったとき〈ええ、そうそう〉、少なかったときもあるから。
- うーん、でも、あ、日本は今でも言わ、思われてるほど、あの、そういう単一〈うん〉文化っていうか〈うん〉、みんな、みんな、民族ではないですからねー〈うん〉。
- T : というのは、日本という国はまあ結構確立してるから〈うん〉、それに結びつく国家間とかいうの〈うん〉これはみんな〈うん〉、いわゆる日本人というのは持ってて〈うん〉、そうではないとき〈うん〉になると〈うん〉、あまりまあアジア人は区別ができないし〈うん〉、えー、ていうふうにも思ったりするんだけど、ま〈あー〉、そんなふうにも思いますけど、どうですか、その辺は。
- I : あー、いやそういう方向に行くところとちょっと過激だところ〈{笑}〉、いう、言うかもしれないから止めた方がいいと思います {笑}。
- T : そうですね。
- どうぞ、言える範囲で言ってください。
- I : あー、うーん、ちょっと話は違うかも〈ええ〉しれないけれど〈ええ〉、ぼくは、あの、愛国主義とか愛国心は〈ええ〉よくないことだと思って〈あー、あー〉るんですね〈ふーん〉。
- いろんな文化とか〈ええ〉国とか〈ええ〉いいところに関して〈ええ〉誇りを持つこ、ま、だから〈ええ〉、自分のグループとか〈ええ〉町とか〈ええ〉、あの一県とか〈ええ〉国とか〈ええ〉、こう色々〈うーん〉そのレベルに、それでいいものを残したいとか〈うん〉、それに関して興味を持ったり〈うん〉、誇りを持つ。
- それは、いいんだけど、国のレベルで他のこ、で、結局は愛国心は〈ええ〉その他の国よりこっちがいいんだって〈うーん〉いう。
- で、邪魔になったら他の国をやっつけないといけない、そういうものに必ず結びつけるので、えー、ぼくは良くないと思んだよね。
- T : なるほどね。
- I : あの、例えば、中国が〈ええ〉、ぼく、今危ないと思うのが〈ええ〉、2・30年間愛、愛国心の教育をやってるじゃないですか。
- T : そうですね。
- I : ですから、日本に対してこう暴動が起こったり〈ええ、ええ〉、あの、あの非常に中国に〈ええ〉若い人ね〈ええ〉、30以下の人〈ええ〉が話すともうぼくから見たら、極端な愛国心で、えー、こう、世界を見る〈うーん〉。
- T : ただし、中国の場合には〈うん〉、あのでっかい国で〈うん〉、もう民族がいろんな民族がいて〈うん、うん〉、えー、やっつと、まあ、まとまってるっていうか〈うん、うん〉、この10何億〈うん、うん〉それについてはどう思われますか〈うん〉そのもしそうしなかったら〈うん〉国が成り立たないっていう。
- I : そうですねー。
- まあ、そこ、うまくバランス〈{笑}〉取ればいいんですけどねー。
- あの、ですから、いろんなグループがいて〈ええ〉、いろんな文化と人と〈ええ〉習慣が〈うん〉あって、それを〈うん〉あるレベルで国として、あの一つ〈ええ〉の社会である〈ええ〉ことを保ちながら、その、あの、独特性を持って〈ええ〉、バランスいけばいいんだけど〈ええ〉。
- えー、ぼくが言ってるのが、その今あの日本とかアメリカとか〈うん、うん〉他の国に対して〈うん〉、俺たちが中国が〈うん〉一番こう世界で〈うん〉えー、良い国だからこう〈うん〉あのすごく自己主張になってしまう〈うん、うん〉。
- T : そうですね。
- I : それが行き過ぎたら危ないなって思う。
- T : 危ないですね、確かにね。
- 非常に大きな問題。
- I : だから、日本もこれから愛国心を〈ええ〉、育つための教育を入れないといけないっていう〈ええ〉。
- あの、その、いきろん分らないでもないですけど〈ええ、ええ〉、日本の〈ええ〉いい所〈ええ〉に対して〈ええ〉誇りを持つとか〈ええ〉、自信を持つとか〈ええ〉、えー、それはいいんだけど〈うん〉、ま、違和感を感じますね {笑}。

K033

T: そうですね。

国家間って難しいものね。

ちょっともう一つお聞きしたいんですけど {息を吸う}、あの、まあ、今ユーロ、ヨーロッパの場合ね〈うん〉、お金ユーロで〈うん〉統一をはかろうとしてますよね〈うん〉。

日本でも、えー、ま、この一、いわゆるアジア圏という〈うん〉、韓国、中国、えー、まあもうちょっと、アジアと同じもの〈うん〉でいいかもしれないけど、あの、円、もしくは、ま、ユアンっていうかな〈あー〉、なんか、そういうものつくろうという考えが〈あー、あー〉あるんですけど、それはどう思われますか。

そういう、もっと経済、経済的なことと政治のバランスっていうのか、あるいはアイデンティティの問題とか。

I: あんまり、考えたことないですね〈うん〉。

経済はよくわからないし、あったら便利っていうところも〈うん〉あるでしょうね〈うん〉。

韓国、中国〈ええ〉、台湾とか行っても〈ええ〉、同じ、こうお金が〈ええ、ええ〉あったら、でも、ヨーロッパより〈ええ〉まだ難しいんじゃないですか〈あー〉、アジア圏でそれをするのが〈うーん〉、うーん。

まだ、ヨーロッパが一つの大陸で〈ええ〉繋がってて〈ええ〉、あの〈ええ〉経済も結び付いてるけど、どうかなー。

あー、そういう話あ、あるですか、ほんとに。

T: え、あります〈{笑}〉。

ありますね。

えーと、ま、わたし、専門は日本語教育ですから〈うーん〉、えー、ちょっと違う、うーん、ま、経済っていうよりは、むしろ、その日本語を、あの、アジア圏でね〈うん〉、一つの共通語にしようっていう〈うーん〉考えはあるんですね〈あー〉。

えー、今のちょっと経済の話をちょっとしたいんですけど、もうドルがすごく弱くなちゃって、もう危ない〈あー〉、あの一〈あー〉、ほんとにアメリカの経済ってね、段々こっちにも影響が出てるんですけど、そういうことは感じられますか？。

I: あ、ドルが弱くなって...

T: て、うん、ドルが弱いし、アメリカの経済が弱くなってる〈あー〉っていうんで〈あー〉、でー、あの、例えば、就職も内定が取り消し〈あー〉。

日本にまでもう来てますね〈あー、あー〉。

そういうことについて、どうですか、何かお考えありますか？。

I: うーん {息を吸う}。

あんまり考えないようにしてますけどね {笑} 〈{笑}〉。

ちょっとほんとに経済のこともよくわからないから〈ええ〉、やー、やっぱり気になりますけど、こうすればいいのかとか〈ええ〉。

あれ〈ええ、ええ〉、ちょっと家内から。

T: はい。

ちょっとあと〈うん〉わずかですからちょっと。

I: わかりました。

T: えー、そうですね。

わかりました。

ちょっとね、最後に、うーんと、ま、ロールプレイっていうんですけど、あの一、簡単なもの一つお願いしたいんですね。

えっとね、こうしようと思います。

あの一、ま、えー、先生があ学生の頃というようなものを思いう、浮かべて。

I: 大学ですか？。

T: 大学ですね。

でー、あの一、ま、学園祭で何か例えば【宗教名1】のえー専門家が来て、その先生を紹介すると〈うん〉、えー、わたしがそうだとします {笑} 〈うん〉。

えー、学生、日本人の学生がたくさんいるんですね〈うん、うん〉。

K033

でー、ま、講演会なんですけど、あー、短いあの【宗教名1】の誰か先生はいらっしやいますよね？。

I : はい。

T : 何ていう先生ですか？。

I : うーん、そうですね、えっと、うーん、えー、【人名1】先生ですか。

T : OK, じゃ、そうしましょう〈{笑}〉。

ほんとに短いちょっと紹介を〈うん〉して欲しいんです。

ですから、恩師を紹介するという。

I : あ、あの、講演の前の？。

T : そう、講演の前で。

I : うん。

T : はい {手をたたく}。

え、じゃ、わたしがその【人名1】、【人名1】先生ですね。

I : で、わたしが...

T : 学生で、を。

I : 【人名1】先生を紹介すると。

T : うん、はい、はい。

I : えーと、今日は色々集まっていただし、ありがとうございます。

今日は、あの、ほんとに、えー、えー、嬉しいことですか、あの【大学名2】から【宗教名1】の専門のえー、【人名1】先生がえー、来ていただいています。

ご存じのように【人名1】先生は、えーと、特に、えー、懺悔ですね。

えーと、【宗教名1】の中のその懺悔についての専門家なので、今日はえー、その話を、えー、させていただきます。

えー、どうぞよろしくおねがいたします。

T : ありがとうございます、どうも。

もう一つなんですけれど、実はそこにちっちゃい子どもがいるんですよ。

I : はい。

T : ちっちゃい子どもがいて、わたし、【T (名)】っていうのね。

I : はい。

T : で、これ、何をやってるかわからないんですね。

子どもに今やってることを説明せいで欲しいんですね。

子どもに、子どもに分かるような言葉で、例えば5歳くらいにしましょう〈うん〉。

いいですね、簡単でいいです。

I : これですか。

T : 今の...

I : 【人名1】先生の。

T : はい。

えっと、この人はいったい何なの？。

I : うーん、この人はたいへん偉い先生で〈うん〉、あの、今日は特別にみんなに話に来たんだよ。

T : 何の話？。

I : ちょっとね、君にわかりにくいかもしれないけど、【宗教名1】という、あの、日本ですごく〈うん〉

じゅ、あの、えー、なんていったらいいのかな〈うん〉、日本で〈うん〉、あの、たくさんの人が〈う

ん〉、え、信じてる〈うん〉あの一、もので〈うん〉、それについてすごくよく勉強して〈うん〉いる人だ

から〈あ、そう〉、たぶん。

T : ぼくが聞いてもわかるかな？。

I : あー、たぶんわからないと思うけど。

T : あ、じゃ、あんまり面白くない。

I : たぶんね。

T : あ。

I : ちょっと、大人の世界の話だから、悪いけど、あの、たぶんわからないかな。

T : あー、じゃ、いいよ。

K033

I : いいですか。

T : はい, ありがとうございます。

どうも, あのー, ちょっと30分なので。

I : {笑} はい。

T : あのー, 色々急いでる部分もありますけど, あのー, 今日はどうもありがとうございました。

I : いえいえ。

T : はい。

はい, どうも。